子宮頸がんは、HPVワクチンで予防できます。



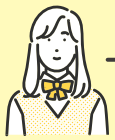
16歳～27歳の女性の方
（1997年4月2日～2008年4月1日生まれ）
キャッチアップ接種対象者の

公費接種の期限が迫ってます!

期日：2025年3月31日まで

2025年3月31日までに計画的な接種をおすすめします。
HPVワクチンは合計3回の接種が必要です。
標準的なスケジュールでは約6カ月間かかります。

●キャッチアップ接種対象者（公費でHPVワクチン接種が可能な方）2024年度に16歳～27歳の方（1997年4月2日～2008年4月1日生まれ）



16歳～27歳の方
1997年4月2日
～
2008年4月1日生まれ

2025年3月31日まで 公費負担

2024年9月まで

接種1回目 接種2回目 接種3回目



6カ月

HPVワクチンを3回接種するには
6ヶ月を要するため、
遅くても2024年9月までに
1回目の接種をおすすめします。



2025年3月31日

2025年4月1日以降は
実費負担 4～10万円が必要!!



公費での接種期間が終了したら
HPVワクチンを3回接種、
実費の場合は4～10万円必要です。

●定期接種対象者（HPVワクチン接種対象者）2024年度に小学校6年生～高校1年生相当の女子（2008年4月2日～2013年4月1日生まれ）

詳しくは厚生労働省のホームページへ
厚労省 HPV 検索

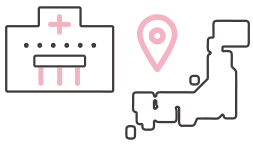
福島県感染症対策課
詳しくはお住まいの市町村へお問い合わせください。
問い合わせ先

厚生労働省 ヒトパピローマウイルス感染症の予防接種に関する相談支援・医療体制強化のための地域ブロック拠点病院整備事業

© 2024 Osaka Medical and Pharmaceutical University Hospital

HPVワクチン接種の流れ

1. 病院を選ぶ



希望するHPVワクチンの接種ができる医療機関を探しましょう。予防接種を行っている医療機関がわからない場合は、市区町村のホームページを検索してみてください。

市区町村名 HPV 予防接種 医療機関　検索

2. 予約を入れる



医療機関に連絡して、ワクチン接種の申し込みをしましょう。希望するワクチンの種類も必ず伝えてください。ワクチン予防接種予診表がない場合や、通知書に同封されていない場合は、病院に伝えておきましょう。

3. 病院に行く



病院に着いたら受付を済ませ、注意事項を確認の上、予診表に記入し体温を測りましょう。※母子健康手帳（13歳以上の方は、接種済証、接種記録カードでも可）と、予診表がある場合は持参してください。

4. 医師の予診



医師による問診がありますので、もし他のワクチン接種の予定がある場合や、これまでワクチン接種をした後に体調に異常があった方は、必ずお伝えください。

5. ワクチン接種



ワクチンを接種します。通常は座った状態で腕の筋肉に注射しますが、横になって打つこともできますので、医師に相談してください。接種後は30分程度、病院にて座って安静にしていただきます。※ワクチン接種は合計2回または3回必要ですので、次回の接種日も考えておきましょう。

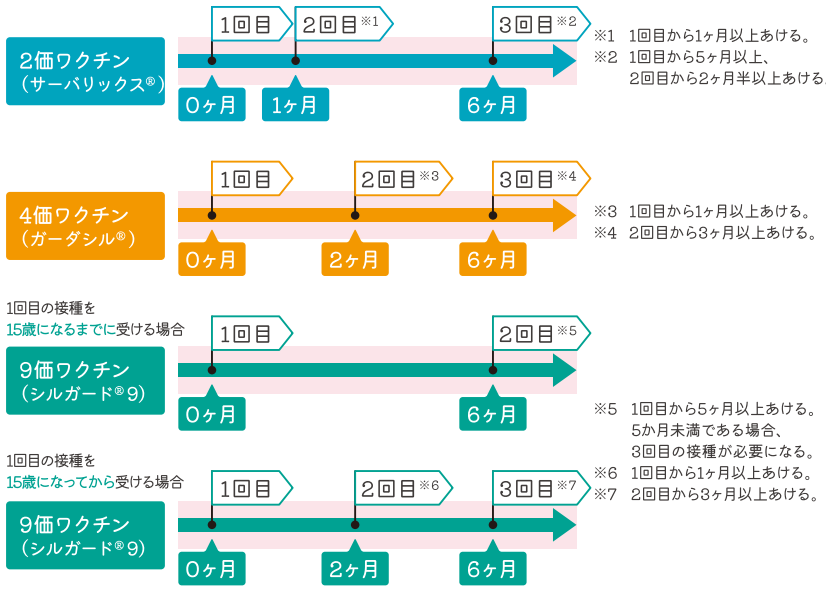
よくあるご質問

Q 接種券も母子手帳も実家です。実家に帰った時にしかワクチン接種できないの？

A ワクチン接種は、原則住民票を登録している市区町村において行うこととなっていますが、住民票のない地域に一時的にお住まいの場合でも、お住まいの市区町村で接種できる場合があります。詳しくはお近くの自治体にお問い合わせください。

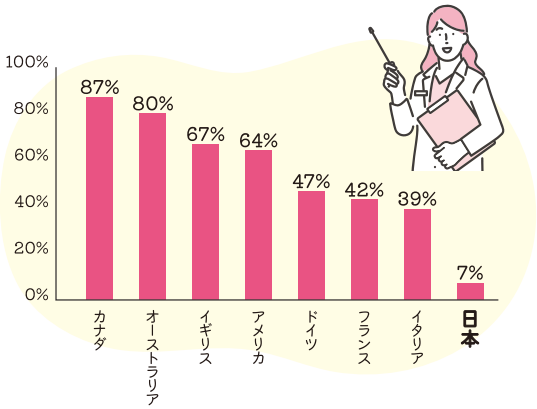
その他のHPVワクチンに関するよくあるご質問はこちらのホームページをご覧ください。

一般的な接種スケジュール



世界保健機関（WHO）が接種を推奨

■ HPVワクチンを接種した女の子の割合（2022年）



※出典　WHO/UNICEF Joint Reporting Form on Immunization

現在日本において公費で受けられるHPVワクチンは、防ぐことができるHPVの種類（型）によって、2価ワクチン（サーバリックス）、4価ワクチン（ガーダシル）、9価ワクチン（シルガード9）の3種類あります。一定の間隔を開けて、同じワクチンを合計2回または3回接種します。接種するワクチンや年齢によって、接種のタイミングや回数が異なります。どのワクチンを接種するかは接種する医療機関に相談してください。

詳しくは厚生労働省のホームページへ

厚労省 HPV　検索